

令和5年度 自己評価結果の学校関係者評価委員会への報告

1、本園の教育目標「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、本学の建学の精神「よいこのころは ちくしのころ」を育む。

- (1) 父母に感謝し、祖先をあがめ、天地の恵みに感謝する子どもに育てる。〔愛〕
- (2) 健康でたくましくしかも集団の中にあつてのびのびとして子どもに育てる。〔勇気〕〔親和〕
- (3) 生活に必要な能力や態度などを身につけ、感性豊かな子どもに育てる。〔知性〕

2、中期経営目標と本年度の重点目標

中期経営目標 ワンランク上の保育者の資質や能力の向上を目指す（園内研修を通して）

重点目標 ①運動的なあそびを楽しむ保育の展開 ②一人一人の発達に即した指導の充実 ③保護者と協働的な関係性を生み出す工夫

3、本年度の評価項目の達成状況及び取り組み状況

評価 A達成している B:概ね達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果				自己評価結果		次年度へ向けての改善策		
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果		総括評価	取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見
運動的なあそびを楽しむ保育の展開	指 導 運 動 的 内 容 な 遊 び 方 法 の 関 工 夫	4	園児の声やあそびから、運動的なあそびに繋がるようなあそびの展開を考え、提案したり環境の構成を工夫したりする。	2.7	4 (年少組以上) 自分たちの遊びに運動的な遊びを取り入れ、年齢なりにあそびを考えたり挑戦をしたりする姿が見られるようになった。 ----- (満三歳児以下) その年齢なりに全身や各部位を使った運動あそびを喜んでするようになった。	3.1	B	<p><年少組以上></p> <p>○昨年に比べて意識的に運動遊びを取り入れるようになった。その中でも子ども達の育ちや興味に応じたあそびやクラス全体で体を動かして遊ぶことが増えた。また、他クラスや他学年の遊びに参加するなどあそびの幅や友だち関係が広がった。</p> <p>○子ども達の姿から保育者があそびを提案することが多く、発展的な姿やクラス独自の取り組みまではあまり見られなかった。</p> <p><満3歳児以下></p> <p>○保育者が手本となり、楽しんで体を動かすことを繰り返し行っていく中で、真似をして体を動かす姿、楽しんでする姿が見られるようになった。</p> <p>○感覚遊具やプールスティックを使ったり、動物のまねっこ遊びを行い体幹が強くなる遊びを積極的に取り入れた。1学期に比べると生活の中で障害物を自分で避けたり、つまずいてもバランスをとったりすることができるようになり、体幹が身につけていると感じる。</p>	<p>○月のたよりや週の計画で促されて取り入れることもあったが、全職員が意識をもって年齢や興味に合わせた運動遊びを日常的に取り入れる計画・実践することができた。その中でクラス内だけではなく、他クラスや他学年と一緒に遊ぶ姿も見られ、お互いにより影響や刺激があり、子ども達の遊びがより充実したものになったと感じる。</p> <p>○全体的にクラス独自のあそびの工夫や展開があまり見られなかった。子ども達が自分たちのあそびに運動的なものを取り入れるまでには至らなかったため次年度に期待したい。</p> <p>○体を動かすことを園で積極的に取り入れるようになったが体の発達を促すための目的に意識のちがいの違いがあったように感じるため、どのような育ちを願っているのか保育者間で共通理解できるようにしていきたい。</p>	
		3	日常的に保育者間で運動的なあそびについての話し、年齢や発達にあったあそびを保育に取り入れる。	3	3 (年少組以上) 運動的なあそびをやってみようになった。 ----- (満三歳児以下) 保育者の真似をしながら、運動的なあそびを喜んでするようになった。					
		2	園児の姿から、実践したあそびがクラスの状況に合ったものかを自分で調べたり考えたりする。	2	2 運動的なあそびの面白さを感じるようになった。					
		1	運動的なあそびの知識を得る。	1	1 保育者や友達に誘われると一緒に遊ぶようになった。					
	保 園 内 者 の 研 修 を 通 じ た	1	園内研修での学んだことを情報共有し、自分の保育に活かす。	1.9	4	4 実践した結果を学年（幼稚園部・保育園部）で報告し合い、より運動的な遊び方を工夫するようになった。	2.6	C	<p>○園内研修は15分エピソードトークから始めたが、2学期中頃になるとできなかった。しかし、学年の保育者間でその日のあそびについてその他の保育者からも様々な意見や考えを聞き学んだりすることができた。周りの先生方から保育に対する思いや経験のある先生方の話を聞くとそんな考えもあるのだと実感した。自分の保育の中でも活かしていきたい。</p> <p>○3号保育では手遊びを発展させて運動遊びにつなげる取り組みを試みた。年齢にあったものであったかなどの反省をし、互いに意見を報告し合った。学びを深めていく</p>	<p>○園内の研修会は幼稚園部・保育園部の時間の使い方が難しく、なかなか上手く計画することができなかった。夏休みなどの長期休暇を利用して計画したり、お互いに研修会をしたい議題がある時には気軽に申し出ができる雰囲気を作ることも心がけたい。</p> <p>○学年間で取り組んだあそびを共有し実践したり、保育者同士で相談し合えるようになったりと学び合いの機会が増えたことはよかったと思うので今後も続けていきたい。</p>
		1	あそびのリーダーとなり、遊びを紹介したり、みんなで実践したりする。		3	3 お互いの意見を尊重し、気づきや学びを行動に移すようになった。				
		1	終礼で15分間エピソードトークをする。		2	2 身近な保育者と保育や園児について気軽に意見交換をするようになった。				
		1	全体や各部署で勤務状況に合わせ、学年の代表として、1学期に1回は園内研修に参加する。		1	1 求められると自分の意見を言うようになった。				

				○は、特別支援を必要とする園児の変容を示す ↓は、学級の他の園児の変容を示す					
一人一人の発達に即した指導の充実	個別の援助（特別支援） 園児の実態把握と	4	心地よい園生活が送れるように意欲につながる言葉かけをしたり、視覚的に理解できる教材の準備や園児の様子に合わせた環境構成を行ったりする。	3.3	4	○自分の思いを簡単な言葉や行動で表現し、コミュニケーションが少しずつとれるようになった。 ・当該児に伝わるように思いを伝えたり表情で伝えたりするようになってきた	3・1 B	○学期ごとに個別の支援計画を立て子ども達が安定した気持ちで園生活を過ごすことができるようになってきた。一人一人の特性・性格などを理解し、フリースタッフとも共有できたことでより適した援助・配慮ができた。 ○研修を重ねたことで、一人一人の意識が高まり保育室の環境を整えたり援助を考えたりしたこと一人一人の子ども達が過ごしやすくなったのではないかと感じる。また、保育者が子ども達をゆったりと受け止められるようになっていくように感じる。 ○クラスの子ども達も支援児の特性について少しずつ理解をもち優しく接する姿が見られ保育者自身がインクルーシブ教育を意識しクラス全体での育ちを考えるようになった。	○研修を重ねたことで一人一人の意識が高まり、保育室の環境を整えたり、援助の方法を考えたりし、子ども達も過ごしやすくなったと思う。しかし、支援の意味の理解や場面・個人に合わせた支援方法の理解がもっと深まっていくように努力する必要がある。 ○クラスでは個別に関わる園児とクラス全体の動きとのバランスは適切であったかが、今後の課題だと感じた。
		3	個々に合わせた支援計画を立てる。		3	○保育者の言葉かけや視覚的な教材を見て、1日の生活の見通しが少しずつもてるようになった。 ・当該児の特性に応じて、受け止めようとする園児の姿が見られるようになってきた。			
		2	家庭や保育者間で連携をとりながら特性を把握し、援助方法を考える。		2	○当該児は、好きなあそびを見つけて遊べるようになった。 ・学級の他の園児が、支援児の特性に気付いてきた。			
		1	園児のあそびの傾向や日常の姿を記録する。		1	喜んで登園するようになった。			
保護者と協働的な工夫関係性を生み出す	園を身近に感じる取り組み （保護者との連携）	4	折に触れ、園行事や保育体験など、保護者に参加したくなるような働きかけをする。	3.2	4	園への理解や信頼関係が深まり、育ちを共有することで子育ての楽しさや悩みを話す保護者が増えてきた。	3 B	○保育参観で保護者の方が絵本を読んでもらったり、園行事の準備や片づけにたくさんの保護者が協力してくださったりし、園に関心をもっていただくことを感じた。 ○ホームページに掲載している子どもの様子の写真を見て、家庭での様子を話して下さったり気軽に相談をしてきたりする保護者が増えた。 ○3号保育は連絡帳を通して園と家庭のあそびや様子を共有することができた。また、保護者との対話を意識的に行ったことで相談を受けることが増え、より連携を図ることができた。 ○保護者の保育体験については、3学期より始め、予想以上にたくさんの保護者の方が参加してくださり、お互いに楽しい時間や経験になった。	○次年度は園の理解や子育ての楽しさを共有できるよう無理のない範囲で一年を通して計画できるようにしたい。 ○園での取り組みに興味をもつだけでなく家庭でも一緒に取り組んでいただけるような支援の方法を工夫していきたい。
		3	個々の育ちを大切にしながら、必要に応じてその姿を個別に伝える。		3	園での生活習慣やあそびを家庭でも試してみようようになった。			
		2	クラスだよりやホームページで園児の育ちや保育（あそび）のねらいを知らせる。		2	園での活動（あそび）や園児の育ちに興味・関心をもつようになった。			
		1	園児の様子を保護者に話す。		1	保護者が園での我が子の様子に興味をもっている。			

4、学校関係者評価委員による評価及び意見

○令和5年度自己評価結果や次年度へ向けての改善策等を拝見させていただき、子どもたちが、教職員や友達や保護者と中で「自分でやってみる」「考えて遊びを作る」など楽しく主体的に活動できていると感じました。園内研修で意見交換したり情報を共有したりして、教職員間のコミュニケーションを大切にされています。個別の援助に関して、日々の記録や個別に合わせた支援を行うことで、保護者との信頼関係を築くための努力が感じられました。子どもを見極めるのが難しいことや援助方法で戸惑うことがあると記載がありますが、試行錯誤しながら保護者と連携を図り、質の向上を図る努力をされていると思いました。最後に地域への情報提供のために月のたよりを地域に郵送いただき、園の取り組みに対する情報が得られるようになっていただきありがとうございます。教職員の皆様が園児一人ひとりのために、お忙しい中日々対応を考え保育されていることを感じる事ができました。

○先生達が園児さん一人一人に目を配りながら園児さんのびのび活動できるように配慮されていました。基本姿勢のもと安全管理も十分に園児さんが安全に過ごせるように徹底されていました。

○子ども達の成長・発達を見ながら配慮していることがよくわかる。園児のエピソード等も共有しながら、また保護者に幼稚園に興味をもってもらえる取り組みをして子どもを支える配慮がされている。

○園庭だけでなく園外保育で園児たちの外遊びやそれに保護者が参加していただくことを今以上に増加することによって園とのかかわり合いもできる。

○欠席などはアプリで行いその後、確認のために先生から保護者に連絡する方がスムーズでは。

5、まとめ

○今年も各々の保育教諭が課題をもち、思いをもって取組指標や成果指標の作成に当たった。

○運動遊びは一学期、二学期と月を追うごとに戸外での遊びも活発になり、遊びのチャレンジカードを作るなど子ども達が進んで戸外遊びや運動遊びにチャレンジできるよう環境や教材の工夫などもみられた。惜しむところはリーダー的保育者が園内研修を設定しないと学びが途切れてしまったところであり、今後の課題である。

○平成28年度から継続してきた特別支援の園内研修に関わる取り組みは細やかな保育教諭の関わりや環境の工夫などにより、支援児とそのクラスの園児が共に育ちがみられたことはとても大きな成果だと思う。

○保育体験を計画したところ予想外に希望者が多く、楽しい保育が展開された。このことは園児にとっても保護者にとっても実りある経験になったと思う。来年につなげていきたい。

○他にも昨年と同様に、保護者の連絡ツールとして欠席連絡などICT化を望む声が多く聞かれた。対話の機会が少なくなった今、欠席連絡の時さえ保護者の声から様々なことを察知し、保護者にかかる言葉を選んで向き合ってきた。対話とICT化をうまく活用していきたい。